



ディザスタ リカバリ システムと COBRAS

ディザスタリカバリ計画では、障害発生時に Cisco Unity Connection を適切にバックアップすることが不可欠です。Unity Connection のバックアップと復元には、次の 2 つのツールを使用する必要があります。

- [ディザスタ リカバリ システムと COBRAS \(1 ページ\)](#)

ディザスタ リカバリ システムと COBRAS

ディザスタリカバリ計画では、障害発生時に Cisco Unity Connection を適切にバックアップすることが不可欠です。Unity Connection のバックアップと復元には、次の 2 つのツールを使用する必要があります。

ディザスタ リカバリ システム (DRS)

ディザスタリカバリ システム (DRS) は、[Cisco Unified Communications Manager 管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] から呼び出すことができるシステムで、完全なデータ バックアップおよび復元の機能を提供します。ディザスタリカバリ システムでは、定期的にスケジュールされた自動データバックアップまたはユーザー起動のデータバックアップを実行できます。

ディザスタリカバリ システムには、次の機能があります。

- バックアップおよび復元タスクを実行するためのユーザ インターフェイス。
- バックアップおよび復元機能を実行するための分散システム アーキテクチャ。
- バックアップのスケジューリング。
- 物理テープ ドライブまたはリモート SFTP サーバへのアーカイブ バックアップ

ディザスタリカバリ システムの詳細については、https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/15/install_upgrade/guide/b_15cuciumg.html にある『Cisco Unity Connection のインストール、アップグレード、およびメンテナンス ガイドリリース 15』の「Cisco Unity Connection コンポーネントのバックアップと復元」の章を参照してください。

Cisco Object Backup and Restore Application Suite (COBRAS)

Cisco Objected Backup and Restore Application Suite (COBRAS) は、管理者がすべてのユーザー、コールハンドラ、インタビューハンドラ、公開配信リスト、スケジュール、およびルーティングルールをバックアップし、その情報の一部またはすべてを別の Cisco Unity Connection サーバーにリストアできるように設計されたツールのセットです。これは、部分的な復元、バックアップされたものとは異なるバージョンまたは製品への復元、および複数のシステムバックアップからのデータの「マージ」を可能にするように特別に設計されています。

COBRAS の使用方法の詳細については、<http://www.ciscounitytools.com/Applications/General/COBRAS/COBRAS.html> にある COBRAS ヘルプを参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。